



おがさわら

# 議会だより

第 134 号



東芝水素エネルギー研究開発センターを視察 5月22日

議案審議	2
一般質問	3
委員会報告	6
議員レポート	8
編集後記	12

新しい議会だより編集委員になりました。

委員長 安藤重行

委員 清水良一、築館俊一、金子隆

よろしく申し上げます。

スマートフォンから見やすい  
デジタル版議会だよりはこちらから  
<http://www.gijiroku.jp/ogasawara/>



## ●平成30年度一般会計ほか補正予算を可決（5月臨時会）

- ✓清瀬職住8号棟の改修工事未執行 △2,000万円
- ✓航空路関連の調査費減額 △1,000万円
- ✓土地開発基金の積み立てに 4,621万5,000円
- ✓土石等仮置場の土石敷均し作業のために 1,075万6,000円

## ●令和元年度一般会計補正予算を可決

- ✓母島評議平運動場フェンス取替工事 1,405万9,000円

## ●清瀬職住11号棟新築工事(建築)の契約

契約の金額 8,823万6,000円

契約の相手 杉田建設興業株式会社小笠原支店

## ●道路改修工事(沖村九号線)、水路改修工事の契約

契約の金額 1億5,897万6,000円

契約の相手 杉田建設興業株式会社小笠原支店

## ●沖村浄水場改良工事(プラントⅡ)の契約

契約の金額 1億3,400万円

契約の相手 昱株式会社

## ●新たに生じた土地の確認

公有水面を埋め立てたときや、噴火などの自然現象で区域内に新たな土地が生じたとき、市町村長は議会の議決を経て、都道府県知事に届け出ます。知事が告示をして初めて法的に確認された土地と認められます。西之島は過去この手続きを行っていませんでしたので、今定例会で現在の面積2.89km<sup>2</sup>と確認しました。

★このほかの議案などの審議結果は、小笠原村ホームページをご覧ください。

# 一般質問

## 築館俊一議員



### 明老会について

**築館議員** 母島では明老会の存在や施設のことをよく理解していない方々もいる。明老会の設立趣旨と施設でどのようなサービスが行われているのか説明を。

**村民課長** 平成12年度から介護保険制度がスタートし、社会福祉法人明老会を設立、村が業務委託し介護サービスを提供している。当初拠点となる施設がないため、母島では診療所2階を利用し実施してきた。平成23年に母島高齢者在宅サービスセンターが完成し、介護サービスが提供できるようになった。

**築館議員** 利用者に寄り添った介護を行ってほしいが、いかがか。

**村民課長** 地域住民に対する説明会を開き、明老会に関する周知を工夫する。利用者、ご家族との信頼関係を築き、介護者が内地に上京する際はデイサービスとショートステイを組み合わせ対応する等、住民が安心してサービスを受けられるように利用者に寄り添った介護を行っていききたい。

### 観光地としてのカード決済について

**築館議員** 島内でカード決済ができる所が少ない。村の考えは。

**産業観光課長** 来島者、村民にとって利便性向上のため、また経済発展につながるよう環境整備を進めていきたい。

**築館議員** 今後どう普及させていくのか。

**産業観光課長** 導入するかは事業者がメリット、デメリットを考え決めるが、関係団体と連携し、導入しやすい環境を整備していくことで普及に努める。決済端末や周辺機器購入費補助等、事業者の負担なしで導入できるような事業の実施、観光協会、商工会と連携し事業者にも周知していききたいと考える。

## 片股敬昌議員



### ふらっとハウスの改修・改築について

**片股議員** 子どもから高齢者まで多くの人に利用されている施設だが、老朽化が進んでおり、夏場ではクーラーが正常に働いているものの、部屋の温度は一向に低くならず、利用者の熱中症が心配される。またこの施設の入力口はコンクリートの階段になっており、高齢者にとっても危険であることから手すりの設置が必要と考える。入口の照明改修も必要である。

**村民課長** 熱がこもる原因は屋根の断熱性能が悪いことによるものと思われる。室内の温度を快適に保つため夏の時期の窓からの強い日差しを防ぐ工夫をしていく。また、安全確保のための建物入口の手すりの設置、照明機器の改修についても今年度中に行う。ふらっとハウスの建て替えについては、父島保育園の建て替え計画に合わせ検討する。

### 掲示板について

**片股議員** 村設置の掲示板は活発に利用されており歓迎すべきだが、スペースが足りない。現在より大きな掲示板に。ガラス戸が固く開きにくいので補修を。画鋲式からマグネット式掲示板に変更を。

**総務課長** 今より大きな掲示板にすることは設置管理面から厳しいが、検討はしていきたい。ガラス戸の不具合については必要な補修を行い、画鋲式掲示板は建て替える際に今までのようにマグネット式に替えていく。

## 清水良一議員



### 持続可能な社会に向けての施策について

**清水議員** ①国際的同意がなされているSDGs（持続可能な開発目標）に積極的に参画の意思はあるか。②SDGs担当部署担当者は。③扇浦交流センター太陽光発電はいまだ有効に活用されていない独立系で技術を持った外部の方を講師に呼び系統に繋がらず独立系で再構築を考えてはどうか。

**村長** ①情報収集という観点からSDGs官民連携プラットフォームに入会していく。

**環境課長** ②個々の目標に合わせて既存の所管課課長が直接このプラットフォームにアクセスし、まとめは環境課で行う。

**総務課長** ③有効に活用できるよう検討していく。

### 小中高の流れの中での教育施策について

**清水議員** ①保育園から高校までほとんど同じメンバーで過ごし、内地受験などで少しずつ仲間が減っていく子供たちにとって小笠原高校の魅力が低下している。入学定員30人に対して現状15人程度となっている。島っ子で定員に満たない部分を「島外生徒受入事業、島留学」によって生徒を集め、高校の活性化を図っていただきたい。②留学や海外での体験をしてきた高校生の成長は目を見張るものがある。小笠原村でも留学のプログラムを作り一人でも多くの子供たちにチャンスを与えてはどうか？

**教育長** ①現時点で島留学の検討はしない。

**村長** ①島外生徒受入を拒んでいる訳ではない。

**教育長** ②東京都や民間のプログラムを活用いただくのが合理的だと考える。

## 安藤重行議員



### シルバー人材センター設置の取組について

**安藤議員** 70歳になっても働かなければ生活できない現状の波が押し寄せている中、4年前から要望してきたシルバー人材センターの設置が遅々として進展がない、進まないのは何に起因するのか。その取り組み状況と今後は。

**村民課長** 設立するためクリアすべき課題、担当者の事務量の勘案の結果、現体制では厳しく、専任職員の配置が必要。今後事業規模、事務局体制作り、予算規模などの調査・検討をしていく。

### 第3次教育ビジョンの諸問題について

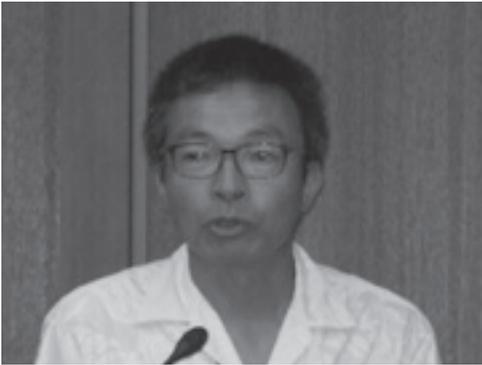
**安藤議員** ①基本計画に添った実施計画策定に取り組む記載がない。②遠隔地教職員の研修支援強化計画は。③生涯教育の基本的観点が抜けているのでは。④教職員の負担が多くなっているのではと危惧するが、負担軽減を考えているか。⑤教職員への過度な要求方針をやめ、教職員の育成と守ることが重要では。

**教育長** ①教育ビジョンは新基本法に基づき策定される基本計画で、実施計画ではない。理解を。③目標欄記載の理想に近づくため力を尽くす。④都教育委員会発行の働き方改革を保護者、教職員へ配布を学校長に指示。⑤教育ビジョンをよく読めばわかる。教育委員の見識を疑われたことに等しい。大変遺憾。

**教育課長** ②研修実績は報告書で確認を。夏季休業中に内地で実施される研修が優先して受講できるよう最大限の配慮。

# 一般質問

## 金子隆議員



### 自然環境保全の将来像について

**金子議員** 各種の保全事業の終わりが見えてこない現状をどう捉えているか。

**村長** 人為の影響を受けてしまった自然をこれ以上損なうことなく、子供たちに残していく事は我々の責任であり、現在の事業を継続していく事が必要。重要なのは、関係機関や村民と事業の意義を確認しあいながら、必要な見直しを行って着実に進めていくこと。

**金子議員** 自然環境保全の目指すべき姿の理想像とは。

**村長** 「人が自然環境を損なうことなく適切に活用しながら暮らしつつ、遺産地域は小笠原本来の姿を取り戻している状況、それは人と自然が共生している姿」だと思う。それを各事業の先にある大義として位置づけることによって、関係各位が一体となって環境保全に取り組める。

### 地方議会議員のなり手不足について

**金子議員** 無投票に終わった村議会議員選挙の結果を受けて、村長の考えを。

**村長** もし仮に、なり手不足を原因として無投票となっているということであれば、今後に向けた課題ではないかと思う。

**金子議員** 村政への無関心が危惧されるが。

**村長** 村としても課題とする。また、議会活性化の議論について、議会側からの要請があれば協力していく。

## 稲垣勇議員



### 7月村長選に向けた所信を伺う

**稲垣議員** 1年前は返還50周年事業をやり遂げたいということだった。昨年度国、東京都の協力を得て、村職員、島民全体で次の50年に向けての成果が出た。今回は島民にどのようなメッセージを出していくのか。

**村長** 昨年度、石井国土交通大臣、小池都知事をはじめ多くのご来賓を迎え、「小笠原は若い人が多く子供たちも元気で、活気ある村だ」と、評価をもらった。小笠原島民で共に汗を流し次世代へつなぐ大地を作り、「一人一人が明日への希望とともにそれぞれの花を咲かせることができる」という令和に込められた願い、「豊かな自然の中で心豊かに暮らせる村」を造り、次世代へ繋ぎ村民の皆様と共に考え新しい時代を切り開く先頭に立ちたい。

**稲垣議員** 個別案件は次回以降の定例会で質問を出します。良い結果が出るよう頑張ってください。

会議での発言内容など詳しく知りたい時は、会議録をご覧ください。

- 村役場議会事務局
- 地域福祉センター図書室
- 母島支所
- 母島図書室

で閲覧できます。

## 航路改善

航路改善への取り組みについて、報告がありました。

### 【繁忙期のチケット販売】

夏季繁忙期のおがさわら丸チケットの販売方法について、小笠原海運に改善を要望していた。今年の夏休み時期のチケット販売では、村民向け優先販売を実施した。今後、村民が充分席を確保できるよう配慮するとのこと。

### 【おがさわら丸のスクラバーの設置】

排ガス洗浄装置（スクラバー）の設置工事を行うため、来年1月に予定しているドックの期間が例年より3日長くなる。期間中の郵便物、貨物の運搬は、共勝丸とドック明けのははじま丸での実施を調整中。



おがさわら丸の父島出港時刻が、現在は午後3時だが、来年からまた3時半に変わるという話がある。（稲垣委員）



東京港入港時の制約条件との兼ね合いで、3時半に戻すという話は、小笠原海運から実際にある。8月、航路検討委員会の中で来年4月以降の運航スケジュールを議論することになっている。（企画政策室長）

## 令和2年度小笠原諸島振興開発事業概算要求について

国土交通省から財務省へ提出された小笠原諸島振興開発事業のうち、村が実施する事業にかかる概算要求の内容、金額について報告がありました。

\*概算要求とは…各省庁が財務省に対し、翌年度の政策を実行するために必要なおおまかな予算を要求すること。



観光振興で、第2原水調整池の上を園地に整備するとのこと。今後改めて村民から意見を聞く予定はあるか。（清水委員）



旧浄水場跡地の活用方法について、過去3、4回住民説明会を実施している。当時の説明の内容と変わらないが、説明会で出たご意見は踏まえながら事業は進める。具体的な計画が決まれば改めて周知することになっているので、園地を前提としたご意見で、反映できるものはできる限り反映したい。

（企画政策室長）

## その他の議題

- 令和2年度東京都予算編成に対する要望について
- 小笠原諸島世界自然遺産について（継続）
- 硫黄島関係についての報告
- 小笠原航空路開設に関する経過報告及び今後の対応について

### 小笠原航空路開設推進特別委員会 6月20日

杉田一男委員長 稲垣 勇副委員長

正副委員長の互選をおこないました。

### 硫黄島調査特別委員会 6月20日

片股敬昌委員長 杉田一男副委員長

正副委員長の互選を行いました。

## 池田 望議長出張報告



出張日	出張先、会議名	出張の用務（ ）は同行者
3月29日	航空路協議会	会議出席
4月1日	都議会自民党、東京都議会尾崎大介議長、長橋桂一副議長、日本共産党東京都議会議員団、山口那津男参議院議員、青木一彦参議院議員	小笠原諸島振興開発特別措置法の改正・延長のお礼（村長）
4月2日	国土交通省土地政策局、石井啓一国土交通大臣、伊藤忠彦衆議院議員、谷川弥一衆議院議員、石原宏高衆議院議員、遠山清彦衆議院議員、金子やすし衆議院議員、二階俊博衆議院議員	小笠原諸島振興開発特別措置法の改正・延長のお礼（村長）
5月16日	都町村議会議長会定期総会、都町村議会議員講演会ほか	会議出席（議員7名）
5月18日	下田市黒船祭記念式典	式典出席（議員1名）
5月20日	三宅正彦都議会議員ほか、東京都議会主要会派及び総務局行政部	村政課題等について情報・意見交換（同行者 議員6名）
5月21日	石原宏高衆議院議員、松原仁衆議院議員、丸川珠代参議院議員、中川雅治参議院議員、山口那津男公明党代表	村政課題等について情報・意見交換（議員7名）
5月22日	東芝府中工場水素エネルギー研究開発センター	視察（議員7名）
	島しょ振興公社運営検討委員会	会議出席
5月23日	防衛省北関東防衛局、環境省関東地方環境事務所	硫黄島関連事業、小笠原諸島世界自然遺産について情報・意見交換（議員7名）
	独立行政法人水資源機構	母島海淡装置無償貸与へのお礼（議員7名）
5月24日	小笠原諸島振興開発審議会	会議出席
5月28日	町村議会議長副議長研修会	研修会出席（副議長）

## 東京都町村議会議員講演会

5月16日に立川で開催された都町村議会議長会主催の講演会に参加しました。タイトルは「その時救われる命のために～奇跡の花の物語～」。講師は「アイリンブループロジェクト実行委員会」代表の菅原淳一氏です。

### 《講演会概要》

東日本大震災時に石巻市で起きた、6歳の少女 佐藤愛梨ちゃんの悲劇。通っていた幼稚園関係者など大人たちの誤った判断によって、助かるはずだった命が津波によって失われました。少女が最期を迎えた場所に数年後に咲いた白い花（フランスギク）は、奇跡的に命をつなぎ「あいりちゃん」と名付けられます。菅原氏たちは「あいりちゃん」の種子を各地に持参しながら講演会などの活動を展開しています。メッセージとして、備えることがより多くの命を救うという防災意識への「気づき」、命が助かるための知恵としての防災を「忘れない」といった事が伝えられます。それに加え、「人の命そのものの大切さ」が、プロの語り手ではない菅原氏やご遺族の心の叫びとして淡々としながらも熱く語られていきます。あの悲劇を決して繰り返すことが無いように。

### 《成果》

都町村議会議長会も応援団体として名を連ねている「アイリンブループロジェクト」の活動のきっかけや成果・その思いなどを代表の菅原氏より直に伺うこと

で、実際に被災された方々の防災への願いについて理解を深めることができました。

講演会後は町村議会の意見交換会を開催。多摩・島しょ地区の議員が150名以上参加しており、各地域の方々と現状の共有や意見などを交わしました。講師の菅原氏もご参加いただき、氏の活動を通しての課題など率直な思いを伺うことができました。

### 《小笠原村に導入できそうなこと》

子供たちを始めとした災害弱者への防災対策は、そこに関わる人々の日ごろの備えが特に重要になります。さらに、被災時には来島者もまた災害弱者となるので、その視点も欠かせないものです。また、「人の命そのものの大切さ」について今一度深く考えさせられる内容なので、他人や仲間との関係において悩み多き若年層を含め、多くの子供たちにも直接聞いて、考えてもらいたいお話でした。代表の菅原氏も小笠原にはご興味を持っていただき、ご来島にはとても前向きでした。

なお、活動紹介のパンフレットに「あいりちゃん」の種子が添付されていましたが、小笠原の事情としては（外来植物の持ち込み）、プランターで管理して栽培するといった配慮をしたいと思います。

（報告者：金子 隆）

## 小笠原諸島文化講演会 ～国策に翻弄された硫黄島の130年～

5月17日、小笠原協会主催による小笠原諸島文化講演会に出席した。明治学院大学の石原 俊教授によるもので「国策に翻弄された硫黄島の130年」と題してお話された。父島に戻ってから先生の書かれた上記の本（中公新書）と、「〈群島〉の歴史社会学」（弘文堂）の2冊を読み終えたが、村民の皆さんに何を報告すればよいのか随分悩んだ。詳細については先生の書かれた本に委ねることとし、この紙面では硫黄島の歴史をたどるのではなく、今現在硫黄島が置かれている現況をお伝えした後、私の個人的体験をお話ししてみたい。

小笠原諸島振興開発審議会は1979年、硫黄島問題小委員会を設置し「硫黄島定住可能性検討調査」として11回の会議と2回の硫黄島現地調査を実施した。

まず火山活動に関して、火山現象は活発で活動中の噴気孔もあり、断層活動も顕著で広い範囲が「危険立入注意区域」と言える。

農業については、自衛隊施設と米沿岸警備隊施設の存在によって農耕地が限られること、強制疎開前の主要農産物であったコカが麻薬取締法によって栽培禁止であること、レモングラスやデリスは合成化学製品に代替され「ほとんど市場性を失っている」こと、<sup>そさいるい</sup>野菜類（食用とする栽培植物）は輸送費用などの観点から市場での競争条件を満たさないことから、農業経営は「限定的にならざるを得ない」。

漁業については、火山活動による隆起

のため、「本格的な漁業施設の建設は当面見通しを立てることができない」ので、成立条件整備が極めて難しいと断じている。

しかし小笠原諸島振興開発審議会の具申内容を検討した結果、硫黄島帰島促進協議会は、あくまでも島民による「自主帰島」を貫く方針を決定している。父島、母島の人たちは戻ることができたのに、硫黄島出身者がなぜ帰島できないのか、という憤りは今も解消されていない。

強制疎開させられた硫黄列島民には北関東などに開拓農民として入植した人々がいる。その中の那須地方は硫黄列島と同じく火山灰土壌であるが、肥料成分が貧弱で農業に適していなかった。寒冷地であるため、作物は頻繁に霜害に遭った。そのような理由から開拓を諦め那須を引き払う入植者が多かったようである。私の故郷はこの那須地方であり、子どもの頃開拓農家のS君が学校へ行く朝いつも我が家に寄ってくれていたが、開拓という意味が分からずにいた。60年目にしてやっとその意味が分かったことに不思議な縁を感じている。

（報告者：片股敬昌）



## 東芝水素エネルギー研究開発センターを視察

5月22日東芝府中工場の水素エネルギー研究開発センターへ議員全員で視察に行ってきました。東芝府中といえばラグビー、今年ラグビーワールドカップが日本で開催され、日本代表のリーチマイケル選手等が所属するチームが東芝府中のラグビー部です。

それはさておき、府中工場は東芝の主力の工場です。全盛期は3万人、現在1万人が働いているそうです。

今は研究部門が多く見学者も多いそうです。ゲストハウスはたくさんの応接室のあるホテルのような建物で、さすが歴史のある会社だなと感じました。

さっそく2015年にできた、水素エネルギー研究開発センターへ案内されました。

残念ながら施設の撮影は禁止されていましたが、見せることにこだわった立派な施設で東芝としてもなんとかこの事業をものにしたいという気持ちが伝わってきます。

水素エネルギーは未来のクリーンエネルギーとして注目を集めています。

風力や太陽光などの自然エネルギーは、気象によって一定に発電しないため貯めておく技術が必要です。その一つが水を電気分解して水素と酸素に分け、その水素を貯めておき、必要な時に燃料電池により電気にするという方法です。理屈は簡単ですが、水素は不安定な気体で金属を劣化させたり爆発の危険もあるため、貯蔵や利用は、かなりの技術とノウハウが必要で、コスト面の説明がパンフ

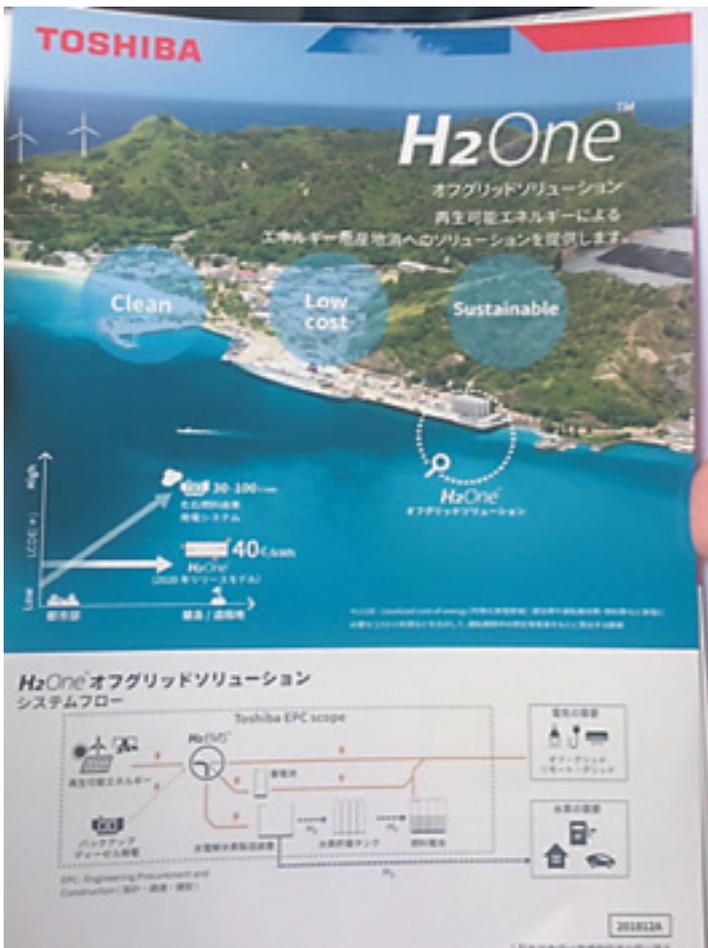
レットにも施設にも表示できないくらいコストも高いようです。一般に普及するには、インフラ整備に莫大な投資が必要のため、現在は防災などの特殊な分野での利用が現実的なようです。

再生可能エネルギー100%を目指す小笠原にとってもこれらの蓄電技術が確立されれば実現が可能になってくるのですが、水素エネルギーのハードルはかなり高いように感じました。

そして最後にこの技術を使ったH<sub>2</sub>Oneという製品のパンフレットを見ると、未来の風景として、なんと父島の港の入った景色が使われていました。

先方も知らなかったようでお互いにびっくりしたわけですが、このパンフレットのコピーに「再生可能エネルギーによるエネルギー地産地消へのソリューションを提供します」と書かれてありました。大企業が考える解答と小さな地域社会が考える解答いろいろな道があっているのだと思います。地産地消の早道は、その土地でできた時にできた場所で使うのが最も効率良い方法だと思います。貯めるという技術がむずかしいならばライフスタイルを変えてエネルギーがないときは使わず、エネルギーができる時はどんどん使うという生活パターンを考えるのも一つの方法だと感じました。お金とエネルギーを貯めなくても安心な地域社会の構築。こんな社会を小笠原につくりたいものです。

日本を代表する電子機器メーカーの東芝は2015年に不正会計や原子力事業の



巨額な損失を抱え、利益の大半を稼いでいた半導体部門を売却することで、なんとか立て直そうとしています。

自然エネルギーが主力の会社に生まれ変わってくればよいなと思いつつ、ゲストハウスの部屋に「弊社は地球温暖化防止の一環として冷房時の室温を28℃に管理する」と書いてありました。原子力をまだ推進する会社はこんなことを書かないように思えます。こんな努力が次の時代のカギになっていくのではないかと私は感じました。

(報告者：清水良一)

東芝のパンフレット。真ん中辺りにおがさわら丸？

## 議員レポート

### 下田市黒船祭記念式典に参加

式典出席のため、議長、副村長、事務局長、築館俊一の4名でお邪魔した。現地に到着、下田市職員の出迎えを受ける。下田市役所の内容、概要等を質問する。職員200名くらい、歴史を感じる。でも毎年人口が500人ずつ転出していると答えていた。式典前日17時ころより前夜祭があった。下田市長にあいさつ、市議の方々と名刺交換、下田市の課題、問題を聞き、小笠原の現実現状など、意見交換する。

翌日の記念式典では、静岡県知事、下田市長のあいさつに続き、アメリカ大使

館公使、米海空軍提督のあいさつと続く。日米両国の友好関係が世界平和と国際親善に寄与することが黒船祭に繋がり、80年を迎える。観光企画の位置づけとして、小笠原返還50年より長く続いている歴史があり、美しい港(駿河湾)、静岡水わさび栽培などの名産もある。

世界文化遺産、韮山反射炉などが静岡県にあり、観光地として有名である。小笠原村は自然遺産をいかに広く世界にアピールできるか？これからの課題である。(報告者：築館俊一)

## 令和元年 第3回 定例会 会議日程表（予定）

月 日	開始時間	会議名	内容
9月10日（火）	午前10時	本会議	会期の決定、一般質問等
9月11日（水）	午前 9時	総務委員会	
	午前11時	硫黄島調査特別委員会	
	午後 2時	小笠原航空路開設推進特別委員会	
	午後3時30分	本会議	議案審議、決特設置
9月18日（水）	午前 9時	平成30年度決算特別委員会	
9月19日（木）	午前 9時	平成30年度決算特別委員会	
	午後 2時	本会議	議案審議、決算採決等

本会議、各委員会は傍聴できます。開会5分前まで傍聴受付を行っています。  
またテレビ11チャンネルで中継放送がご覧になれます。

### 編集後記

4月から村議会は新たな議員メンバーでの船出となった。7月には村長選挙もあり、その動向を見定めて行かなければならない。

今まで2名体制だった編集委員がこの『議会だより』から増員された。

議長を含めた全議員に委員になってもらえばよかったが、今回から4名の編集委員会となった。

議会広報のあり方について委員の方々には、内地研修を受けていただくことをお勧めしている。大変有意義で勉強になる。

今期から編集長のポストを設けた。今までは編集委員のみだったが、一歩前進したという思いだ。今後は皆様からいろいろなことについての要望を、議会事務局まで一報頂きたい。

今まで業者をお願いしていた一般質問の回答は、質問者本人が編集することでは時短を図り、タイムリーさを求め、詳細については会議録検索システムで議事録を検索できるようにした。定例議会開催後今までは2ヶ月以上後に発行されていた『議会だより』を、一日でも早く、皆様の手元へ届くようにしていきたいという思いからだ。また、開かれた村政へと変えていきたいとの思いで、編集委員全員で情報発信して行こうと思う。

（安藤重行）

会議録をパソコンやスマートフォンなどでも見ることができます。

小笠原村公式サイト→議会事務局→会議録で

平成31年の本会議、委員会から、会議録検索システムで閲覧・検索ができるようになりました。過去の会議については順次掲載する予定です。

